

碟茂左衛門

復刊版



群馬地域文化振興会

著 吉 成 森 藤

門 衛 左 茂 碣

(附)

牲 犧

1926

版 出 社 潮 新

自序

これは、私の最初の戯曲の本だ。かなり長く創作の筆を取りながら、又劇への闘心を持ちながら、私は今まで一つも戯曲を書いた事がなかつた。が、どうしても書かずにはゐられない氣もちに促迫されて、相次いで此の二つの長篇に指を染めた。最初に「礎茂左衛門」、次に「犠牲」。

これは、ひどくちがつた範疇に属する二種類の劇だ。片方が舊劇風、片方が近代劇的なものである爲めか？ そればかりではない。一方が大衆劇、他方が小劇指向の作であるからか？ 概ねはさう云へやう。その二つの傾向こそは、現代の一否、將來の新しい劇の二大分野でなければならない。

幸ひ、雑誌に発表されると共に、兩者甚大な好評を獲た。その厚意ある批評の筆を取つて下すつた諸氏に、ここにあつく感謝する。

で、——一つはまだ半ばきり發表しないうちに——上演の申込みを受け、同時に舞臺に

自序

掛けられる事になつた」が、「犠牲」の方は、折角の築地小劇場の御骨折りを泡に、突然禁止になつた。謹いで、雑誌さへ厄を受けた。「犠牲」は「時代の犠牲」を表現したつもりだつた。が、思ひがけなくも、又自らそれになつたのだ。「碟茂左衛門」の方は、カツトされながら、井上正夫一座の手によつて日延べになるまで演ぜられた。

ここで、いろいろ御厄介をかけた兩劇場の演出者初め諸氏に、ふかく御禮する。更に文章を下さつた兩舞臺監督、小山内氏、鈴木氏、考證の田村氏、裝幀その他の繁岡氏、伊藤氏達に感謝を述べる。

田村氏の考證は、今年初頭資料を送られた後更に研究の結果、一二ヶ所當時の材料とちがつた點がある。が、私の作には別に變更の必要もない事實だ。なほ、都新聞紙上某氏を駁した同氏の「茂左衛門考」にも、隨分貴重な知識がある。私の戯曲を以て「農民傳説の結晶であり、眞珠塔であり、生きた傳説である」とされたその文章をも、乞うて載せたかつたが、重複の感があるので思ひ切つた。

目 次

礪 茂 左 衛 門

第一幕	三
第二幕	一七
第三幕	二九
第四幕	三七
第五幕	四三

○

「礪茂左衛門」の演出について……………鈴木善太郎……三

沼田領階級鬭争史略……………田村榮太郎……三

犧

牲

第一幕	〔六〕
第二幕	……
第三幕	……
第四幕	……
第五幕	……

○

「犧牲」について……………小山内薫……501

裝幀 繁岡鑒一氏



場の合會山峰大幕二第「門衛左茂疊」



場の訴籠駕場一第幕三第「門衛左茂疊」



場の場刑幕五第「門衛左茂疊」

松竹座六月興行

繁岡鑒一氏舞臺裝置

(デッサン)